

(財) 日本環境協会理事長賞

里山を築いていくために

青山小学校 鈴木 大介

ぼくたちの学校では、屋上に里山をつくり、野菜を栽培しています。ぼくが五年生の時でした。野菜に水やりをしていると、ハチ・ミミズがいつぱいいました。それはいい土という証拠です。しかし、生き物が最初いなかった時、ミミズを

「気持ち悪い。」

と言ったり思ったりしていました。できあがったはじめてのメロンを食べたら、

「あれ、甘くない。」

と、衝撃を受けました。ミミズが、土の成分を分解してくれないと、野菜がおいしく育たないのです。だから、ミミズ以外の生き物でも、その働きに感謝したくなりました。

屋上の棚には、キュウリとゴーヤの根が巻き付いて、自然のエアコン、グリーンカーテンがあります。田舎でしか味わえない自然が青山で芽吹き始めたのです。周りには、緑が広がり、空気がとてもきれいです。夏も暑い中、たきのような汗を流しました。その汗の分、野菜はおいしくなるということが分かりました。

夏休み、ぼくが朝早く水やりに行くと、小鳥が並んで止まっていました。もうその屋上は、生き物たちの憩いの場となっていたのです。その時は、とてもうれしかったです。なぜなら、初めは屋上に里山をつくるなんて、

「絶対無理。」

と、考えていたのが、自然と共有できる場になったからです。

だからぼくは、そのような里山が都会の東京などに増えてほしいなと思っています。そのためには、つまり自分で育て、自分で食べる、

「自給自足」

をすればいいのです。そうすれば、都会も緑があふれます。

そういうこととは反対に今は、農業をやる人が、年々減少し、若い世代そのものの数も減少しています。スーパーで売られている商品は国内の物が少なくなり、外国産の物が増えていくような気がします。外国から輸入したものは確かに安くてもいいかもしれません。しかし、その輸入相手国と輸入ができなくな

つたら、どうするのでしょうか。

だからぼくは、それを防ぐために自給自足して里山を築くことが大切だと思います。

当然、ぼくたちができることもあります。例えば、里山を築くこと・自給自足のような大きなものじゃなくても役立ちます。なるべく国内産を食べること・旬のものを食べることなど色々あります。小さなことからやればいいのです。そして、里山の授業も次の学年に受けつがれています。だから、そのように自然が増えればいいと思っています。

良いことは、どんどん次の代へと考えをつなげていくことが大切だと思います。そのために、自分ができる最大限の事をしていきます。

講評

自分の日頃の実践に基づき、素直に自分の意見を述べた良い作品です。